

令和 2 年 9 月 14 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0084

研究課題名(和文) 国際ボランティアが途上国にもたらす変化とグローバル市民社会の形成

研究課題名(英文) Change made by international volunteers to developing countries and the formation of global civil society

研究代表者

岡部 恭宜 (Okabe, Yasunobu)

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：00511445

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、国際ボランティアが途上国の人々にもたらす変化と、それがグローバル市民社会の形成に及ぼす影響について、社会科学・人文学の立場から分析することである。

事例としては日本の青年海外協力隊(協力隊)を取り上げ、社会関係資本、課題対処能力などの概念を用いて、協力隊のボランティア活動が開発協力の成果を上げていることを論じた。また、本来支援を「与える」側の協力隊員が現地では何かを「与えられる」という互酬感の分析、帰国ボランティアの進路や社会貢献に関する分析、さらに諸外国の同種事業の比較分析も行った。そしてグローバル市民社会の形成について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が取り上げた青年海外協力隊は国民参加型のODA事業であり、実際に創設以来55年の間に45,000人を超えるボランティアが途上国に派遣され、開発協力を行ってきた。多くの国民が参加してきたこの事業について、その成果を多様な学問から実証しようとする本研究の取り組みは、大きな社会的意義を有するものである。

また、国際ボランティアの研究は日本ではそれほど盛んではないため、学術面でも意義がある。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study project is to explore the change made by international volunteers to people in developing countries and its influence on the shaping of global civil society, from perspectives of social sciences and humanities.

This study selected the case of Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) and discussed that the JOCV program was effective in development cooperation, depending on the concepts of social capital and capacity development. Further, it examined the reciprocity defined as a feeling that volunteers as service provider are given something in return by local people through their JOCV activities.

Also, this study addressed the issues of returned volunteers' career path and their contribution to Japanese society and comparison between JOCV and similar programs in other countries. Finally we concluded that JOCV contributed to shaping the global civil society.

研究分野：開発協力論

キーワード：国際ボランティア 開発協力 青年海外協力隊 JICA ソーシャル・キャピタル キャパシティ・ディベロプメント グローバル市民社会 社会貢献

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、貧困の削減、感染症・難民対策などのグローバル・イシューに国家が充分に対処できていないことを背景に、研究者や実務家の間では国際ボランティア活動の潜在力に注目が集まっている。そして、国際ボランティアが活動地域に変化をもたらすことに注目し、それを質的、量的に評価、分析、測定しようという動きが、研究者だけでなく、実務家、国際 NGO の中から現れてきている。

しかし、先行研究の問題点として、まず、変化の分析は様々なアプローチが模索されている段階にとどまっており、社会科学の理論的な概念を用いた分析や本格的な計量分析はまだ少ない。

次に、研究対象は欧米(米国、英国、カナダ、フランス、ノルウェーなど)の国際ボランティア活動がほとんどで、偏りがある一方で、最近(1990年代以降)活動が活発化しているアジアの事例(日本、韓国、タイ、中国など)の研究はまだ少ない。

2. 研究の目的

本研究は、日本の青年海外協力隊(以下、協力隊)を主な事例とし、次の問題に取り組むことで、従来の研究を発展させた。第一に、国際ボランティア活動としての協力隊は現地住民との関係の中でどのように開発の成果を上げているのか、その効果を高める条件は何か、そしてボランティア個人の動機や意識とそれらはどのような関係にあるのか、という問題である。

第二に、国際ボランティア活動を通じた現地の変化の積み重ねによってボランティアが現地住民との間で一定の関係を構築したり、帰国後の進路を通じて社会貢献を行ったりしており、その結果、グローバル市民社会を形成しているのではないか、という問題である。

なお、この場合のグローバル市民社会とは、国際 NGO が影響力を發揮して国家や国際機関の政策形成に関与することを指すのではなく、より実働的なものであり、個人としてのボランティアが国境を超えて、国家や国際機関と協力したり、その政策に関与したりしながら、他国の人々や社会の経済・社会的条件の改善に貢献するような個人・社会・国家間の関係を指している。

3. 研究の方法

主に日本の青年海外協力隊(協力隊)を取り上げ、個々の隊員の活動や協力隊の事例分析を実施した。

理論的には、政治学、社会学、人類学に依拠しながら、社会関係資本(Social capital)、課題対処能力(Capacity development)、互酬感(本来支援を「与える」側の協力隊員が現地で何かを「与えられる」という感覚)などの理論的な概念を用いた。

また、帰国ボランティアの進路や社会貢献のあり方のパターン、上記の社会関係資本の形成、そして隊員の国際ボランティア活動への参加の動機について、質的、量的な調査を行った。

質的には、一次・二次資料の渉猟と分析、そして青年海外協力隊の隊員や実施機関である国際協力機構(JICA)関係者への聞き取り調査なども実施した。

量的には、隊員に対する意識調査データ(サンプル数は1,500以上。派遣前・活動中・帰国後の3時点で調査したパネルデータ)を収集し、それらを用いてクラスター分析などの計量分析を行った。

さらに、諸外国(米国、英国、カナダ、フランス、韓国、タイ、中国など)の国際ボランティア事業の事例を調査し、協力隊との比較分析も行った。

4. 研究成果

以上の研究の結果、次のことが明らかになった。

第一に、協力隊のボランティア活動は、現地の人々の社会関係資本の形成や課題対処能力の向上を通じて、経済的および社会的な開発協力の成果を上げられること。

第二に、隊員の属性、活動内容、取り組み姿勢と帰国後の社会貢献や進路の間にはいくつかの関係性が見られること、および隊員の国際ボランティア活動への参加動機と隊員の属性は6つに類型化でき、それらはJICA関係者や協力隊員の経験とも一致すること。

第三に、国際ボランティアである協力隊員は知識や技術を通じて現地の開発に貢献する(=与える)側であるが、同時に、開発協力の活動を通じて価値観や人生観について現地の人々から学んだり教えられたりする(=与えられる)感覚を持つことが多いこと。

第四に、欧米と比べて日本や韓国などアジアの国際ボランティア活動は国家事業が多く、事業目的が多様であること、その背景には国際ボランティア活動が一種の国際規範として働いていること、米国の平和部隊や日本の協力隊の影響が大きいこと。

以上の研究成果は、学术论文(和文および英文)、学術図書、海外を含む学会報告などの形で

発表された。とくに学術図書は学会で評価され、『青年海外協力隊は何をもたらしたか——開発協力とグローバル人材育成 50 年の成果』（ミネルヴァ書房、2018 年）は、国際開発学会 2019 年度特別賞を受賞した。

また、研究成果は、青年海外協力隊事業を実施している国際協力機構（JICA）の関係部局や関係者にも参照されており、学術研究と実務の有機的な関係構築に寄与した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Okabe Yasunobu, Shiratori Sakiko, Suda Kazuya	4. 巻 30
2. 論文標題 What Motivates Japan's International Volunteers? Categorizing Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCVs)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 VOLUNTAS: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations	6. 最初と最後の頁 1069 ~ 1089
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1007/s11266-019-00110-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 42
2. 論文標題 Sora Sato, Edmund Burke as Historian	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 108-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細野昭雄	4. 巻 27
2. 論文標題 カイゼンと学習 「質の高い成長」の視座から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 27-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡部恭宜 (白鳥佐紀子、須田一哉との共著)	4. 巻 158
2. 論文標題 What Motivates Japan's International Volunteers? Categorizing Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCVs)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JICA-RI Working Paper, No.158, JICA Research Institute	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡部恭宜	4. 巻 第81号第2巻
2. 論文標題 国際ボランティアが織りなすグローバル市民社会 試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学（東北大学法学部紀要）	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫真友子	4. 巻 164
2. 論文標題 Measuring the Competencies of International Volunteers: Key Competencies of the Japan Overseas Cooperation Volunteers and their Perceived Achievements and Outcomes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JICA-RI Working Paper, No.164, JICA Research Institute	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大貫真友子（Janis H. Zickfeldほかとの共著）	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Conceptualizing and Measuring the Experience Often Labelled Being Moved Across 19 Nations and 15 Languages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Emotion	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 1117
2. 論文標題 歴史の理論家としてのポーコック：その知的軌跡における政治・多元性・批判的知性の擁護	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 129-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 29
2. 論文標題 政治思想の「空間論的転回」：土地・空間・場所をめぐる震災後の政治学的課題を理解するために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 20
2. 論文標題 Seiji-tetsugaku-teki kosatsu: riberaru to sosharu no aida (Papers on Political Philosophy: Between Liberal and Social)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Science Japan Journal	6. 最初と最後の頁 287-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ssjj/jyx025	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関根久雄	4. 巻 28
2. 論文標題 地域開発と『文化的交叉評価』の可能性 - ソロモン諸島における農村開発 活動の事例から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関根久雄	4. 巻 27
2. 論文標題 太平洋島嶼地域におけるサブシステムと持続可能な開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 114
2. 論文標題 政治思想史の通史叙述の形成期におけるパーク解釈の変転：学説史において、パークはいつから保守主義の創設者とされたか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学志林	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 2016-1
2. 論文標題 書評 政治思想史(欧米) 小野紀明『西洋政治思想史講義』(岩波書店、2015)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 242-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部恭宜	4. 巻 81
2. 論文標題 国際ボランティアが織りなすグローバル市民社会 試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 1143
2. 論文標題 ケンブリッジ学派以後の政治思想史方法論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫真友子 (Yuzhi Xiaoとの共著)	4. 巻 201
2. 論文標題 Personal Determinants of Volunteering for Former International Volunteers: A Case of Japan Overseas Cooperation Volunteers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JICA Research Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 岡部恭宜
2. 発表標題 Diffusion of international voluntary service: U.S. Peace Corps, Japan Overseas Cooperation Volunteers, and Korea Overseas Volunteers
3. 学会等名 The 13th International Conference of the International Society for Third-Sector Research, Amsterdam, Holland. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関根久雄
2. 発表標題 持続可能な開発における文化の居場所～開発と文化の実践的距離感
3. 学会等名 国際開発学会第29回全国大会、筑波大学筑波キャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 犬塚元
2. 発表標題 いつまでスキナー頼みか：ケンブリッジ学派以後の政治思想史方法論
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大貫真友子
2. 発表標題 Do returned international volunteers continue to volunteer? If so, who is doing more what?: A case of Japan
3. 学会等名 International Volunteer Cooperation Organizations (IVCO)、モントレオール、カナダ (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大貫真友子
2. 発表標題 Emotional appraisals of competencies for international volunteers over time and their linkages to performance outcomes
3. 学会等名 The 13th International Conference of the International Society for Third-Sector Research、Amsterdam, Holland (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細野昭雄
2. 発表標題 カイゼンと学習 「質の高い成長」の視座から
3. 学会等名 国際開発学会とJICAの共催によるセミナーでの発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡部恭直
2. 発表標題 Diffusion of International Voluntary Service: U.S. Peace Corps, Japan Overseas Cooperation Volunteers, and Korea Overseas Volunteers
3. 学会等名 Annual conference for International Volunteering Cooperation Organisations (IVCO 2017) in Seoul (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡部恭宜
2. 発表標題 Diffusion of international voluntary service: U.S. Peace Corps, Japan Overseas Cooperation Volunteers, and Korea Overseas Volunteers
3. 学会等名 The 13th International Conference of the International Society for Third-Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大貫真友子
2. 発表標題 Emotional appraisals of competencies for international volunteers over time and their linkages to performance outcomes
3. 学会等名 The 13th International Conference of the International Society for Third-Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 犬塚元
2. 発表標題 データフィクションの時代における思想・哲学研究：デジタルデータ、デジタルツール（検索、計量分析）をどう利活用できるか
3. 学会等名 日本イギリス哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡部恭宜
2. 発表標題 Social Capital Formation and the Role of Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCVs)
3. 学会等名 Annual conference for International Volunteering Cooperation Organisations (IVCO) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大貫真友子
2. 発表標題 Key Competencies for Japan Overseas Cooperation Volunteers(JOCVs) and Their Roles in Successful Volunteer Outcomes
3. 学会等名 Annual conference for International Volunteering Cooperation Organisations (IVCO) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 犬塚元
2. 発表標題 "That Political Philosophy May Be Reduced to a Science" 松元雅和『応用政治哲学：方法論の探求』（2015.11）の紹介と検討
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大貫真友子 (Cliff Allumとの共著)
2. 発表標題 , "Measuring the collective impact of Forum members and associate members,
3. 学会等名 IVCO 2019 Conference Paper, Rwanda, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大貫真友子、岡部恭宜
2. 発表標題 Social Capital as Means and Outcomes of International Volunteering: The Case of Japan Overseas Cooperation Volunteers
3. 学会等名 IVCO 2019 Conference Paper, Rwanda, (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 岡部恭宜（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 青年海外協力隊は何をもたらしたか 開発協力とグローバル人材育成50年の成果（序章、第1, 7, 10章、終章）	

1. 著者名 細野昭雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 青年海外協力隊は何をもたらしたか 開発協力とグローバル人材育成50年の成果（第4章）	

1. 著者名 関根久雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 青年海外協力隊は何をもたらしたか 開発協力とグローバル人材育成50年の成果（第8章）	

1. 著者名 岡部恭宜	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 204
3. 書名 アジア共同体構築への視座 政治・経済協力から考える（第10章）	

1. 著者名 関根久雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 342
3. 書名 「和解と忘却 ソロモン諸島における「真実和解委員会」の活動が意味するもの」細谷広美・佐藤義明編 『グローバル化する正義の人類学 国際社会における法形成とローカリティ』	

1. 著者名 犬塚元（編集委員の1人）、社会思想史学会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 関根久雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 グローバル・ジャスティスの模索とローカリティ グローバルとローカルの出会う現場から	

1. 著者名 細野昭雄	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Columbia University Press	5. 総ページ数 516
3. 書名 Efficiency, Finance, and Varieties of Industrial Policy: Guiding Resources, Learning, and Technology for Sustained Growth (edited by Norman, Akbar, and Joseph E. Stiglitz)	

1. 著者名 犬塚元ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 パーク読本	

1. 著者名 関根久雄、信田敏宏、白川千尋、宇田川妙子ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 365
3. 書名 グローバル支援の人類学 変貌するNGO・市民活動の現場から	

1. 著者名 細野昭雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Columbia University Press	5. 総ページ数 465
3. 書名 The Quality of Growth in Africa. (edited by Ravi Kanbur, Akbar Noman, and Joseph E. Stiglitz),	

1. 著者名 犬塚元、ヒューム	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 266
3. 書名 自然宗教をめぐる対話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第9回青年海外協力隊研究セミナー開催—ユニークさゆえの好影響と課題とは？
https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/news/topics/20190111_01.html
 インクルーシブな開発に向けてボランティア事業は何か？国際ボランティア会議2018で研究成果
https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/news/topics/20181028_01.html
 青年海外協力隊は何をもたらしたか？書籍発刊セミナーで議論
https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/news/topics/20180625_02.html
 青年海外協力隊の学際的研究
https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/research/strategies/strategies_20111201-20140331.html
 国際ボランティア会議で青年海外協力隊（JOCV）研究の成果を発表 - 大貫研究員、岡部客員研究員
https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/news/topics/20161009_01.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細野 昭雄 (Hosono Akio) (40114128)	独立行政法人国際協力機構(研究所)・研究所・上席研究員 (82808)	
研究分担者	関根 久雄 (Sekine Hisao) (60283462)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	犬塚 元 (Inuzuka Hajime) (30313224)	法政大学・法学部・教授 (32675)	
研究分担者	大貫 真友子 (Onuki Mayuko) (60771912)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究センター)・助教 (82808)	